

社会資本総合整備計画
都市再生整備計画 事後評価シート
綾地区(3期)

令和7年3月

宮崎県綾町

様式2-1 評価結果のまとめ

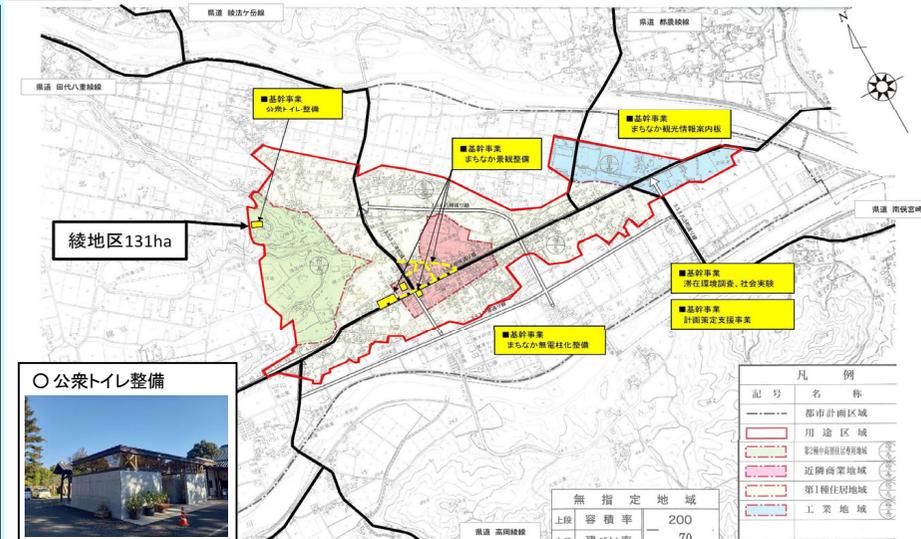
都道府県名	宮崎県		市町村名	綾町		地区名	綾地区(3期)			面積	131ha		
交付期間	令和1年度～6年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	395(百万円)	国費率	0.48				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		まちなか観光情報案内板整備、まちなか無電柱化整備、公衆トイレ整備(バリアフリー対応)										
	提案事業		事業効果分析										
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業		基幹事業 ・まちなか広場整備(ポケットパーク、都市イベント広場等) ・まちなか景観整備(高質化等)			・合意形成が図れず完成が見込めないため削除。 ・関連事業の進捗遅延により完成が見込めないため削除。			-				
	新たに追加した事業		基幹事業 ・滞在環境調査、社会実験(綾まちなか地区)、計画策定支援事業			・滞在環境創出・強化のため事業の追加			-				
交付期間の変更		当初 令和1年度～5年度		変更 令和1年度～6年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	まちなか歩行者数	人/年	48,000	H30	90,000	R5	-	26,000	×	あり なし ●	綾のまち(中心市街地)に滞在する機能が充実してきているものの、綾の顔づくりは未だ形成途中であり、目標値までは達しなかった。	令和7年5月頃
	指標2	まちなかイベント開催日数	日/年	20	H30	24	R5	-	25	○	あり なし ●	町内の小中学生が関わるイベントが新たに開催される等、様々な町民がまちなかで活動し、楽しんだり、色々な人とつながったりする機運が醸成されてきており、目標値を上回るイベントが開催されたと考えられる。	令和7年5月頃
指標3										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	まちなか歩行者数(回遊ネットワーク)	人/年	26,000	H30	/	-	49,000	/	/	綾のまちでの取組により、滞在する機会や魅力が高まっている状況により、回遊ネットワーク上における歩行者数が増加していると考えられる。	令和7年5月頃	
その他の数値指標2	公共空間における新たな官民連携プロジェクト数	プロジェクト	0	H30	/		3	/	/	本計画期間で特に(改めて)、人が暮らす地域(移行地域)において、様々な町民が活動し、楽しんだり、人とつながったりする機運が醸成されてきていることが、官民連携の新たなプロジェクトの創出につながったと考えられる。	令和7年5月頃		
4)定性的な効果発現状況	・公衆トイレ整備事業により、老朽化施設が改善され、中心市街地の拠点施設(綾手づくりほんものセンター)における快適性の向上が図られた。												
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等				
	モニタリング		なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			- - -				
	住民参加プロセス		まちなか社会実験において「綾町のウォークアブル構想」等についての周知			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● - -				
	持続的なまちづくり体制の構築		まちなかウォークアブル等に資する官民連携の体制を構築			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● - -				

様式2-2 地区の概要

綾地区(3期)(宮崎県綾町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
[大目標] '自然と人が共生するまち・ユネスコ エコパークのまち' の中心市街地にふさわしい、町民と訪れた方が『出会い・ふれあい・分かち合える』綾の顔づくり [目標1] 人と人との交流の拠点としての中心市街地の賑わいを再生するために、まちぐるみでの綾の顔づくりと住民創意の活力のあるまちづくりを目指す。 [目標2] ユネスコ エコパークのまちの中心市街地にふさわしい空間づくりにより、町民や訪れる人の心身の健康を増進する美しい綾づくり・景観まちづくりを推進する。	まちなか歩行者数 単位: 人/年	48,000 H30	90,000 R5	26,000 R6
	まちなかイベント開催日数 単位: 日/年	20 H30	24 R5	25 R5
	まちなか歩行者数(回遊ネットワーク) 単位: 人/年	37,000 H30		45,000 R6
	公共空間における新たな官民連携プロジェクト数 単位: プロジェクト	0		3 R6

○ 新たな道路空間づくり社会実験の様子(R4)



○ 新たな道路空間づくり社会実験の様子(R5)



○ 『まちにわ』プロジェクトの様子



○ 綾町ウォーカーブル構想の周知(社会実験実施中)



まちの課題の変化

【達成されたこと(課題の改善状況)】

- ・本事業によって、中心市街地の拠点施設(綾手づくりほんものセンター)の快適性向上を図った。
- ・また、様々な町民がまちなかで活動し、楽しんだり、色々な人とつながりやすくなる機運が醸成されてきており、まちなかでのイベント数が増加したり、公共空間において多様な世代・主体が協働で進めるまちづくり(『まちにわ』プロジェクト)の創出・推進が図られた。
- ・まちなかウォーカーブル区域内において無電柱化等の事業を進めることで、美しい綾づくり・綾の顔づくり推進の機運、民間・地域の方も参加するまちづくりの機運が高まってきている。
- ・まちなかウォーカーブルにおいても重要な「みち」において、新たな道路空間づくりを実践・検証する社会実験を、多様な主体と一緒に実施すること等により、新たなみちの使い方や官民連携・多様な主体の連携によるまちづくりの機運醸成が図られた。

【残された未解決の課題】

- ・本町の中心市街地において、様々な主体による活動が進められているものの、綾の豊かな照葉樹林(核心地域)・緩衝地域・移行地域の有機的な繋がり(綾の自然・みどり)を体感できる中心市街地の形成という視点では課題が残った。
- ・未完了区間が残る等、美しい綾づくり・綾の顔づくりに向けて、継続的な事業推進(未完了区間の継続的な無電柱化推進や緑のネットワーク化)が必要な状況にある。
- ・まちなかにおける日常的な歩行者数は未だ十分に増加している状況ではない。引き続き、まちなかの滞在快適性を向上する取組の実施や、綾町の目指すべきまちづくり(自然共生型まちづくり)を推進する必要がある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

【効果を持続させるための基本的な考え方】

- ・まちなかの公共空間等において、多様な世代・主体が協働で進めるまちづくりの継続推進
- ・美しい綾づくり・綾の顔づくり推進に向けた基盤づくりの継続推進
- ・3期計画で進めた、新たなみちの使い方や官民・多様な主体の連携によるまちづくりの機運醸成を活かした、更なる事業の推進

【改善策の基本的な考え方】

- ・「綾の自然・みどり」を体感できる中心市街地の形成の推進
- ・自然を介して交流するグリーンコミュニティの推進
- ・自然共生型まちづくりを展開していく機運の醸成と活動支援(より多くの町民が関わるための取組の推進)